

第1回 甲南大学先端研究社会実装シンポジウム開催

2023. 9. 28

2023年9月15日(金)に第1回甲南大学先端研究社会実装シンポジウムを開催いたしました。

本シンポジウムは、本学の研究者と参加者の皆様との双方向コミュニケーションを特徴とし、研究成果をリアルに体感いただくことで研究成果を社会実装へとつなげることを目的として開催いたしました。

当日は、企業・団体の皆様、学園・大学関係者など、245名のご来場をいただきました。

プログラム

【第1部】

13:00 学長挨拶 甲南大学長 中井伊都子

13:10 基調講演 エレコム株式会社 代表取締役会長 葉田順治 氏

14:00 甲南大学発ベンチャー第1号 プレゼンテーション

株式会社 B-Lab 代表取締役社長・フロンティアサイエンス学部 甲元一也 教授

14:10 ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラムプレゼンテーション

プログラムリーダー 経済学部 石川路子 教授

【第2部】

14:35 展示ブース・産学連携相談ブース ・ 特許・研究シーズ プレゼンテーション ・ 大学院生ポスター展示

第1部では、中井伊都子学長の開会挨拶の後、エレコム株式会社 代表取締役会長 葉田順治氏(1976年・甲南大学経営学部卒業)による基調講演が行われました。「イノベーションと経営」と題して、先端技術への支援と取り組み、卒業してからの仕事人生、個人と会社の社会貢献の3つをテーマに、経営の要諦や幅広い活動を紹介いただきました。

続いて、甲南大学発ベンチャー第1号「株式会社 B-Lab」代表取締役社長であり、本学フロンティアサイエンス学部の甲元一也教授によるプレゼンテーションが行われました。事業概要と共にβグルカンをも150倍水に溶けやすく加工する特許技術が紹介されました。

最後に、ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラムのリーダーである石川路子教授(経済学部)より、実践型の起業家育成プログラムについて紹介されました。

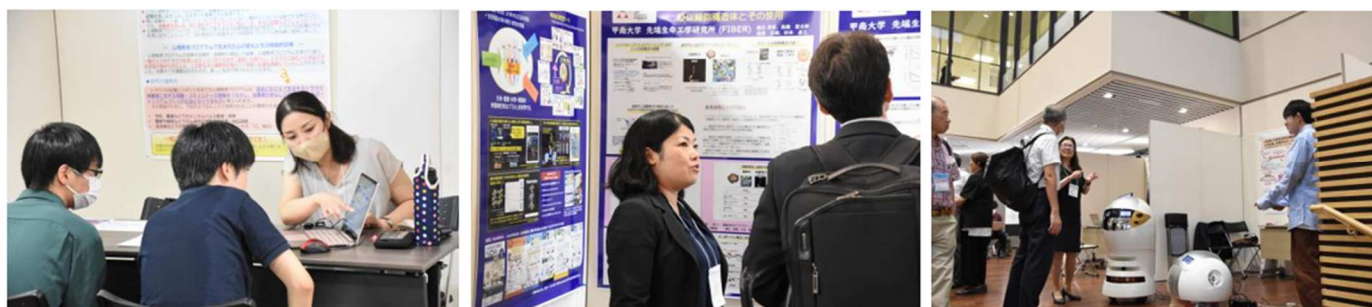


第2部では、展示ブースと特許・研究シーズプレゼンテーションにより、本学研究者の研究成果を参加者の皆様にご紹介いたしました。

展示ブースは、「医療・ヘルスケア」「資源・エネルギー」「材料」「地域経済・人文社会」「情報通信」「甲南新世紀戦略研究プロジェクト(※)」の6つの分野から、30ブースを出展いたしました。また、産学連携相談ブースも併設し、本学の産学連携コーディネーターと知財アドバイザーが参加者の相談に対応いたしました。

A 医療・ヘルスケア		
A-1	株式会社B-Labの事業概要について	株式会社 B-Lab 甲元 一也
A-2	組織再生など多目的用途に応用可能な生体適合性ハイドロゲル	フロンティアサイエンス学部 長濱 宏治
A-3	核酸医薬品実用化に向けた核酸医薬研究所の取り組みー核酸医薬品開発のプラットフォームを目指してー	核酸医薬研究所
A-4	生体内で細胞を可視化し迅速かつ正確な疾患診断や治療判定に有用な顕微内視鏡の概要およびその使用例	フロンティアサイエンス学部 後藤 俊志
A-5	健康社会を実現するマクロファージ活性化物質とそのメカニズムの解明	フロンティアサイエンス学部 西方 敬人
A-6	トラウマ体験者が安心して回復できるサポートシステムの構築	文学部・人間科学科 大澤 香織
A-7	疾患に特徴的な核酸鎖が形成する立体構造を狙った医薬品開発の現状	フロンティアサイエンス学部 三好 大輔
A-8	脂質分析受託サービス	理工学部・生物学科 今井 博之
A-9	モデル生物メダカによる視覚のしくみ解明ー網膜疾患への応用を見据えてー	統合ニューロバイオロジー研究所
A-10	悪性度の高いがんに対する標的分子の同定とその制御による革新的ながん治療法の確立	フロンティアサイエンス学部 川内 敬子
A-11	生きた細胞の状態(分子環境)を計測するセンサー-核酸の設計、構築技術	先端生命工学研究所 杉本 直己・遠藤 玉樹・高橋 俊太郎・建石 寿扶・松本 咲
A-12	生細胞を使わず、細胞内における標的分子の相互作用を厳密かつ簡便に再現・評価する疑似細胞構造体とその使用	先端生命工学研究所 杉本 直己・遠藤 玉樹・高橋 俊太郎・建石 寿扶・松本 咲
B 資源・エネルギー		
B-1	原生生物スピリノチュラにできることーDHAやアスタキサンチンなどの高機能物質生産から餌開発ー	理工学部・生物学科 本多 大輔
B-2	未来社会に取り組む、エネルギー変換材料研究所	エネルギー変換材料研究所
C 材料		
C-1	人工ペプチドを用いた材料・薬剤・医工学装置などの開発	フロンティアサイエンス学部 臼井 健二
C-2	常識を変える、振とう不要、有機溶媒を使わない新しい液液抽出装置	理工学部・機能分子化学科 茶山 健二
C-3	レーザー励起ドライプロセスによる粒径制御された球状ナノ粒子作成ープラズマモック光応用デバイス材料の創生に向けてー	理工学部・物理学科 梅津 郁朗
D 地域経済・人文社会		
D-1	ナッジの社会実装ー行動経済学を用いた行動変容ー	マネジメント創造学部 木成 勇介
D-2	ブータン山村にて、地域住民の生活基盤づくりに関わる	マネジメント創造学部 真崎 克彦
D-3	日本の国債累積に問題はないのか？ー歴史と現状から考えるー	経済学部 永成 顕
D-4	産学連携マーケティング研究の成果:地域企業との新たな価値創出	経営学部 西村 順二
D-5	中小企業 課題解決 相談受付ー人材育成、労務問題等お気軽にご相談ください。	ビジネス・イノベーション研究所
D-5	ニュースの感情を分析するー景気予測への応用ー	知能情報学部 関 和広
D-6	KONAN研究力展開プロジェクト EXPO'70アート・ドキュメンタリー映画製作	人間科学研究所 川田 都樹子
E 情報通信		
E-1	プログラミングの民主化を促進するローコード開発環境の紹介と今後の展開	知能情報学部 新田 直也
E-2	AIを用いて漫才台本を自動生成しそれを演じる漫才ロボットの研究開発	知能情報学部 瀧本 明代・北村 達也・梅谷 智弘
E-3	SNSやゲーミフィケーションを活用した発声訓練e-Healthシステム	知能情報学部 北村 達也
E-4	クラウドAIを用いた応対サービスロボットの迅速開発	知能情報学部 梅谷 智弘・北村 達也
F 甲南新世紀 戦略研究プロジェクト		
F-1	カーボンニュートラルに貢献するエネルギー変換材料の開発研究	エネルギー変換材料研究所
F-2	未利用熱マネジメントに向けた革新的熱電変換ナノ材料の開発	ナノ材料工学研究所(設置予定)
F-3	非ワトソン・クリックワールドの核酸化学の確立と国際核酸化学研究拠点の形成	先端生命工学研究所
G 産学連携相談ブース		

※「甲南新世紀戦略研究プロジェクト」は、最先端で甲南らしい特色ある研究からイノベーション創出など社会の発展に大きく寄与する取組み、及び地域に根差し、その課題解決をリードしていく甲南らしい特色ある研究から、地域の経済・社会・雇用・文化などの発展・深化に大きく寄与する取組みに助成を行い、もって甲南大学の研究力の向上及び教育への浸み出しを目的として行うものです。2024年度からの第I期は、3つの研究課題が採択されました。

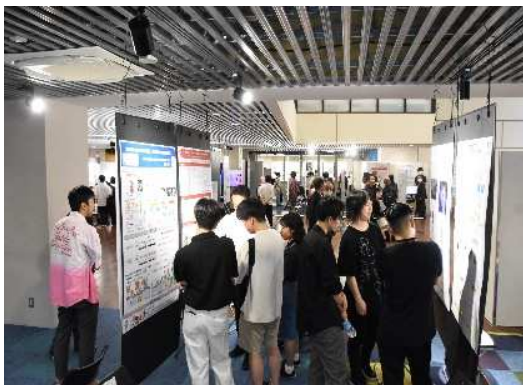
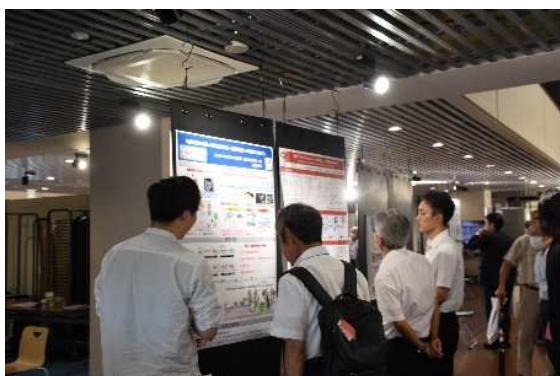


また、特許・研究シーズプレゼンテーションでは、本学の特許等が紹介されました。

情報通信 SNSやゲーミフィケーションを活用した発声訓練e-Healthシステム 知能情報学部 北村 達也	地域経済・人文社会 人生100年時代を支える高齢者の住まい環境の検証 経済学部 足立 泰美	医療・ヘルスケア 健康社会を実現するマクロファージ活性化物質とそのメカニズムの解明 フロンティアサイエンス学部 西方 敬人
情報通信 プログラミングの民主化を促進するローコード開発環境の紹介と今後の展開 知能情報学部 新田 直也	材料 レーザーを用いた超高速スピントロニクス省エネ・高速な電子デバイスを目指してー 理工学部・物理学科 高吉 慎太郎	医療・ヘルスケア 核酸医薬品実用化に向けての核酸医薬研究所の取り組みー核酸医薬品開発のプラットフォームを目指してー 核酸医薬研究所 川上 純司、寄本 捺愛、富田 恵麗沙
情報通信 IoTデバイスによる温湿度の分布型計測を利用した就寝状態の見守りシステム 知能情報学部 梅谷 智弘	物理学 物理学の領域で推進しようとしている社会実装への取り組み 理工学部・物理学科 教員	医療・ヘルスケア 疾患関連タンパク質と結合するRNAを高効率に選別する新技術ー新型コロナウイルスのRNA合成反応を阻害するRNAを見つけましたー 先端生命工学研究所 遠藤 玉樹
情報通信 人の動きを視覚センサーで捉えるー入退場者カウンタ、図書館入館システム、ラジオ体操採点システム、シニアカー安全装置、オフィス内の人の管理システムー 知能情報学部 田中 雅博	材料 レーザー励起ドライプロセスによる粒径制御された球状ナノ粒子作成ープラズモニク光応用デバイス材料の創生に向けてー 理工学部・物理学科 梅津 郁朗	医療・ヘルスケア 生細胞を使わず、細胞内における標的分子の相互作用を厳密かつ簡便に再現・評価する疑似細胞構造体とその使用 先端生命工学研究所 建石 寿枝
資源・エネルギー 原生物ラビリントラは魚のDHAの供給者なのか？ 理工学部・生物学科 本多 大輔	材料 2相間の液液抽出の常識を根底から覆すイオン液体生成反応を利用した化学物質の自動抽出・濃縮装置 理工学部・機能分子化学科 茶山 健二	医療・ヘルスケア 疾患に特徴的な核酸鎖が形成する立体構造を狙った医薬品開発の現状 フロンティアサイエンス学部 三好 大輔
	材料 固定化ペプチドビーズの開発と医工学装置への応用 フロンティアサイエンス学部 白井 健二	医療・ヘルスケア 「細胞を用いず」に「材料だけを用いる」次世代再生医療技術ー生体内で再生環境を整えるインジェクタブルゲルー フロンティアサイエンス学部 長濱 宏治



この他、本学大学院生の研究活動を紹介するポスター展示も行われ、34名が参加いたしました。



本学の研究成果を社会実装へとつなげ、地域社会の発展に寄与するという本学のビジョンを実現するために、今後も産官学連携の活性化につながる取り組みを推進してまいります。